

1969年から登山を始め、1973年に豊田山岳会に入会し、先輩から先鋭的なアルピニズムを学びました。1975年厳冬期の北穂高岳滝谷を登攀。1976年に登山オリンピックといわれたソ連山岳連盟主催で14カ国参加のパミール国際キャンプに「日本山岳会パミール学術遠征隊」の隊員で参加。旧ソ連最高峰コミュニズム峰(7495m)に、日本人として初登できました。遠征前、西側諸国では、「ソ連流高所登山は世界最強」といわれたがベールに包まれていた。彼らはスポーツマスターと呼ばれるソ連政府公認のプロ登山家でスタイルは「7千メートル峰の岩壁速攻登攀」でした。アタック前日、標高7000mの最終キャンプに着いたMは、強い高度障害により意識障害が発生。私は彼と二人で簡易テントでバークした。深夜、彼はテントから出たが外は気温-30度、酸素濃度40%。外に出ると滑落死するので阻止した。翌朝、登攀隊長から「Mは私が見るから上郡は頂上へ行け」といわれて登頂。キャンプに戻るとMは昏睡状態。設営中のソ連隊の医師に応急処置を受け、私はまたMと二人で長い夜を過ごした。翌朝からMをテント搬送で標高6000mまで降ろすと歩けるまで回復。4000mのベースキャンプに帰着の翌日にはMは普通の状態に回復。1977年頃から世界の登山家による、「ヒマラヤ8000m峰の速攻登山」がブームになる。また数回のパミール国際キャンプで得た外貨で、ソ連登山家はエベレスト南西壁に向かった。初登は逃したが、涼しい顔で完登してひきあげた。との印象が強い。

1977年厳冬期は剣岳チンネを登攀、豊田山岳会20周年記念事業で「1979インドヒマラヤホワイトセール(6455m)登山隊」を結成。登攀ルートは過去2度の挑戦を退けた難攻不落を誇る未踏ルートに定め、強化合宿では全員が厳冬期の富士山頂火口壁で登攀訓練を実施した。遠征隊員は出発時、7人全員がはたち代で小規模な町の山岳会のため、隊員全員が登頂機会を均等に「ソ連流速攻戦術」を採用。強い隊員がルート工作に先発し、高所順応が遅れている隊員はベースキャンプで休養。回復後は荷上隊で活躍。食料も底が見え、上部岩壁の核心部が見えないまま、全員ベースキャンプで2日間の連休を取り体力回復に専念。最後の会議で満を持して「突撃型速攻戦術」に切替。その夜、張り詰めた空気の中で私は30歳の誕生日を迎え、一人雇ったポータがヒンズー語で「幸せになれる歌」を歌ってくれた。翌朝私は2人で出発し、1日遅れで残り5人が続いた。ルートが解明できて新設の最終キャンプでは7名全員高所順応が完了し士気が高く「全員登れる」と判断した。その翌日、核心部の岩壁帯は垂直の氷瀑にルートに定め、縄梯子をかけて突破。隊員7人全員同時登頂に成功。1000m近いロープと縄梯子を張りめぐらした非常に困難な登攀を克服しての登頂に全員感激。遠征後、隊員はそれぞれの道を歩いた。登頂30周年記念キャンプでは「あの遠征を糧にして30年ずっと生きている」とみんな口をそろえる。またうれしくなった。最後に、先発隊でニューデリー到着後間もなく下痢と高熱で寝込んだ私を、現地の「風の便り」から見舞ってくれた日本の親善大使の中学1年のお嬢さんと、32年過ぎた今も年賀挨拶が続いています。思い出すたびにタイムスリップする私。今になって「お見舞いありがとう。心配かけてすみません。おかげさまで前人未踏ルートから7人全員同時登頂できました」。

私は兵庫県多可町の出身。近くに日本登山史の先駆者「孤高の人」のモデル加藤文太郎氏(現新温泉町1905-1936)。世界有数の冒険家、植村直己氏(現豊岡市1941-1984)。山岳部出身の現役政治家T氏(福知山市)、私を含む4名は植村氏を中心に半径33~35kmの円内にふるさとがある。高所登山では国内第一人者の原真氏(名古屋市1936-2009)の指導で、欧州の一流登山家や世界最強のソ連登山家と登山ができた。私は生まれながらにして一流登山家になれる基盤はあったようだが、ふるさとの先駆者の教えと世界一流の指導を生かせず、一歩手前の二流でわらじを脱いだ。幸せな現役登山で感謝しています。

エコツーリズムの商品開発と都市部・地域の交流を目指して

パミール遠征を機会に、1977年フリーランスエンジニアとして機械設計事務所「アルプエンジニアリング」を開業し、遠征後は事業に専念しています。1989年CAD(コンピュータ設計支援システム)を導入し、機械設計とは別にCADで設計の視点からエコツアー商品を自力自主開発。2000年に旅行会社とお付き合いが始まり、お客様から好評をいただいております。

2006年から環境、歴史、文化を切り口に、東京、名古屋、大阪発着の「着地型エコツーリズム」開発に着手しました。この数年、パソコンの性能向上、各種ソフトの充実、通信技術の進歩などで公開のめどが立ちました。すべてCADで開発したPDF変換形式です。コースは、充実感が得られる完歩計画と地域の商品が中心となっています。年齢を問わず皆さんとオシャベリしながら楽しく歩き、都会と地域の交流の懸け橋になれば光栄です。2005年2月に法人化。社名のアルプイージーのアルプは高峰、イージーはエンジニアのEG、エコロジーのE、グリーンのGを表します。住所は豊田市で家族4人。ホームページのPDF版資料は、自分で書いて自分で校正しています。素人文で校正が行き届かないところはご容赦下さい。計画はすべて初公開で、皆様に支えられて軌道に乗せたいと考えています。ご支援ご指導とご参加のほど、よろしくお願い申し上げます。

